

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2775004993		
法人名	有限会社 メディワールド		
事業所名	グループホーム そよかぜ		
所在地	〒577-0826 大阪府東大阪市大蓮北1-9-26		
自己評価作成日	平成22年3月31日	評価結果市町村受理日	平成22年6月29日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・当グループホームでも利用者重度化が進んでおりますが、日課の体操や毎月毎月のレクリエーション行事を大切に、利用者の元気・やる気を引き出す取り組みをしています。 ・また、地域で廃品回収に協力することで、社会参加を図っています。 ・医療面では在宅内科訪問診療 週2回・訪問歯科管理指導 週1回・薬剤管理指導 週1回・訪問リハビリ施術にて利用者を支援しています。 必要な方に、認知症専門外来(精神科)受診支援も行っています。  
 ・福祉面では生活保護受給者受入・権利擁護事業利用の支援をしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://c.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2775004993&amp;SCD=320">c.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2775004993&amp;SCD=320</a>
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪府大阪市中央区常盤町2-1-8 親和ビル4F		
訪問調査日	平成22年5月27日		

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業主体は鍼灸整骨マッサージ院の他、、通所介護、訪問看護等の介護事業を運営し、平成17年7月に新築で1階にデイサービスを併設した2ユニットのホームを開設した。地域に密着した介護事業所として利用者から信頼され、利用者本位の介護の実績が築かれている。管理者は平成20年4月に就任し、優しく暖かい人柄でホームに和やかな雰囲気を作っている。業務別担当者を任命して委員会・部会・係り等が毎月それぞれ会議を開いて意見、提案を集約して、運営に反映させて質の向上に具体的に取り組んでいる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスとなったことを機会に職員より公募して理念を再構築した。玄関に掲げ、その元で毎日申し送りを行っている。	ホーム独自で4項目ある理念を作りあげ玄関に掲げて、職員全員が理解して共有し実践に向けて努力している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	毎月、地域の廃品回収に協力して、顔なじみになっている。朝の道路掃除にても挨拶を交わす。	自治会に加入して廃品回収に協力し、敬老会の集いに参加している。近隣中学校の福祉体験実習を受け入れている。ホーム前の掃除や散歩で近隣住民と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	平成21年8月認知症サポーター講座を開催し、地域住民の参加を見た。また、人権講習会のお知らせ・介護に関する質問受付や虐待防止啓発ポスターを貼る等 地域に発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、当施設のサービス・評価への取り組みはもちろん、東大阪市・介護保険の動向など情報を伝え、意見を頂き、サービス向上に活かしている。	自治会役員、市議員、地域包括支援センター、利用者、家族が参加して、2ヶ月に1回開催して活発な意見交換が行なわれている。議事録を作成して職員で話し合い、業務に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護事業者連絡会・地域会議に参加し、連絡を取っている。また、運営推進会議に地域包括支援センターが出席していただき、協力関係を築いている。	介護保険申請代行や生活保護担当者と連携をとり、近況報告や相談をしている。東大阪市の研修会や事業者連絡協議会に出席している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年1回以上身体拘束防止研修を行い、職員の理解を深めている。ユニット玄関の施錠は夜間のみに行っている。	月1回拘束防止会議をして、身体拘束による利用者が受ける弊害について理解し、拘束のないケアの工夫を行なっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年1回以上虐待防止研修を行い、職員の理解を深めている。家族虐待にて入所されている利用者あり、面会時は見守りしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族の意向により、権利擁護事業を利用している入居者1名、活用を奨めている入居者1名がいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結や改定等の際は、利用者や家族の不安・疑問点について、十分な説明を行い理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者代表に運営推進会議に出席いただいている。また、面会や家族会の折に家族から意見を伺うよう努めている。	年3回開催の家族会や、運営推進会議、家族の来訪時に気軽に意見要望を言って貰えるよう気配りをして運営に反映させている。「そよかぜ新聞」を発行している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	週2回のミーティングにて、職員一人ひとりの意見・提案を聞く機会を設け、反映させている。	年間計画で行事・研修・会議を決めている。業務別担当者を任命してそれぞれ委員会・部会・係りなどから意見、提案を聞いて運営に反映させて質の向上に具体的に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各個人の努力や実績を勘案し、給与水準、労働時間、研修・資格取得奨励など、職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人外研修出席を任命し、法人内研修にて伝達研修を行いトレーニングしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	東大阪市介護事業者連絡会に加入し、会議や研修にて同業者と交流している。また、認知症実践者研修実習生を受け入れ、ネットワーク作りを行い、サービス向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と言語的・非言語的コミュニケーションをとり、本人の気持ち・悩み・不安・要望等を聞き・汲み取り、本人が安心して対応できる関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族より聞き取りを行い、家族らの生活・介護・経済面・人間関係などを知り、共に介護する関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	認知症共同生活介護を導入する又は状態が変わってきた段階で、認知症専門外来受診又は重度認知症デイケア通所を勧めるなど必要に応じて対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者から昔の知恵を聞いたり、出来る用事をお願いしたりと協力して暮らす関係にある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にしか出来ないことがあるので面会をお願いする。また、家族の思いを運営推進会議で聞かせていただくことで、職員の認知症理解を深め、共に支援していく関係にある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の面会を歓迎したり、通信を支援している。また、求めにより送迎などの便宜を図っている。	利用者の多くは以前近隣に住んでいたもので、散歩などで顔見知りに出会い親しく挨拶を交わしている。遠くに住む家族からのホーム宛札状を紹介して、手紙を書く支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の会話をしやすい席位置や声掛けで、一緒に暮らす温かさが感じられる関係を心がけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人家族のサービス利用および生活状況を把握し、必要に応じて、本人家族の相談にのり、支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人の時間を大切に編み物をしたい方、多人数で会話を楽しみたい方など思いはそれぞれであり、危険のないように配慮しながら本人本位に暮らしていただいている。	毎月カンファレンスを行い一人ひとりの思いや暮らしの希望、意向の把握に努めている。利用者の身体状況に合わせて、日々の過ごし方が利用者本位になるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族・サービス担当者等から情報を頂き、職員で共有して把握・理解に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の状況は家族が把握しているものとは隔たりがある場合が多く、また変化してゆくものであるため、職員が現状把握に努める必要がある。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人・家族・主治医・歯科医等の意見を反映し、方針を定め、介護計画を作成している。	個別のケア記録をもとに、利用者、家族、主治医の意見等を踏まえて介護計画を作成している。3ヶ月ごとに見直し、状態の変化により新たな介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果、気づき・工夫は多岐にわたり個別記録に一部しか書ききれない。朝夕礼・週2回のミーティングで情報共有しながら実践・介護計画見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族を支えるために車での受診送迎や併設通所介護事業所のレク参加の機会を持つなど柔軟な支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣散歩・買い物により地域住民との会話やふれあいを持ち、安全で豊かな暮らしを楽しむ支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族等の希望を大切に受診していただき、事業所はかかりつけ医と連携しながら、適切に医療を受けられる体制をとっている。	利用者や家族の同意を得て、協力医療機関をかかりつけ医としている。以前からのかかりつけ医の継続受診も支援している。医療機関との連携を密にする取り組みをしてる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は日常からの情報・気づきを看護職に伝え相談し、適切な受診・治療・看護を受けられるように協働している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際、安心して治療・退院できるように、面会を重ね、病院関係者との情報交換する。また透析移行者の退院後透析通院相談等に努め、関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	特に高齢者については重度化した場合や終末期の在り方について話す機会を持ち、方針を共有している。主治医とも連携しチームとして取り組んでいる。	医師の助言により「看取り看護・介護についての同意書」を作成して、充分説明しながら方針を共有し、利用者、複数の家族、医師に記名捺印してもらっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	てんかんその他の急変時、事故発生時に備えてマニュアルを整備している。特に応急処置についてビデオを用いた実地研修に取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域消防署の協力を得て、年2回避難・消防訓練を行い、実践力を身に付けている。	年2回消防署の協力を得て利用者も参加して消防・避難訓練を実施し、マニュアルを整備して非常用物品を備蓄している。記録写真を撮り防災学習をして職員の意識を高めているが、地域住民の避難協力体制がない。	職員の少ない夜間の利用者の避難について、運営推進会議などで近隣住民の協力を得る取り組みが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、言葉掛け・対応を心がけている。ユニット最年長者に食事時の「いただきます」の発声をお願いしている。	利用者の尊厳や羞恥心に配慮した言葉遣いや態度で接しており、個人情報の取り扱いや保管にも充分気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は日常生活の中で自立支援を心がけており、介助時の説明により本人の同意・協力の表出を促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員レク係が午後のレクリエーションを決まりきったものにしなない様に心を砕いて計画しているが、ユニット毎に一人ひとりの希望を入れた構成としている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれができるように、職員は支援し、また本人の希望を家族に伝えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみになるよう、本日のメニューを掲示している。利用者の好みを取り入れたり、持てる力に合わせて一緒に準備や片付けを行なっている。	調理師の資格を持つ調理専門職員により、利用者の好みや誕生日の特別献立で、職員が車で買物に行っている。ユニット別で出来ることで手伝って貰いながら調理して食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は栄養バランス・各個人の嚥下機能を考えたメニュー・食事形態にて作成。食べる量・水分量は一人ひとり確保できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを奨励し、準備・声掛け・介助・義歯管理を行っている。週1回訪問歯科指導がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンにより、排泄介助・時間トイレ誘導を行い、自立支援している。	利用者の体調や個性による排泄習慣を把握して、トイレ誘導や、排泄介助で自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝 牛乳をメニューに加えている(透析食者は別メニュー)ほか、野菜の多い献立としている。また 毎日の朝夕の体操を日課に取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの週間の予定に合わせて入浴を楽しめるように計画している。	2日に1回の入浴としているが、入浴記録を丁寧にとり、時間や回数など利用者の希望に合わせて入浴を楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣をアセスメントし、この状況に応じて休息していただいている。また、昼夜逆転しないよう日中の活動の働きかけを積極的に行なっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬剤情報・指導をかかりつけ薬局から受けて、情報共有・理解に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合い・喜びのある日々を過ごせるように、食事時の「いただきます」号令や合唱・散歩など一人ひとりに支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の本人の希望により、散歩や買い物を行う。本人・家族の希望で東大阪国際交流フェスティバルに送迎計画し支援している。	中国人利用者と家族が希望する送迎支援をしたり、天気の良い日は体調不良の利用者を除いて、殆んどの利用者が一緒に近くの2ヶ所の公園へ散歩に出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や力に合わせて、買い物の際の所持・支払など支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望による電話・手紙の支援はもちろん、家族へ贈り物の礼状など計画・作成から支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間・居室は木の素材で落ち着いた作りとなっている。また、清潔・温度・換気に気を配り、不快・混乱の元となる音や光がないよう配慮している。季節感を取り入れた利用者の作品・写真を飾り、居心地よく過ごせるよう工夫している。	玄関横の広場に四季の草花を植えベンチを置いている。食堂には全員で食事が出来る長い食卓があり、壁にテレビを掛けている。同フロアーに畳敷きの腰掛が大きなテーブルを囲んでいて、障子がある丸窓から廻廊できる廊下が望まれ、居心地よく過ごせる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間に居ながら畳敷きに腰掛けて外を見ながら独りにもなれるし、気の合った者と過ごせる居場所がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人・家族と相談しながら、車椅子使用者は空間を確保しながら本人らしくベッド・家具等配置し、居心地良く過ごせるよう工夫している。	居室は洗面台、クローゼットを設置している。利用者の生活暦や家族の思いで様々に飾り付けられ、その人らしい部屋を作っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーで手摺のあることは勿論、ユニット内で迷っても居間を周回して居室やトイレにたどり着く作りになっている。		